

「県立学校施設長寿命化計画」策定に関する基本方針の概要

「基本方針」策定の趣旨

県立学校施設の現状を踏まえると、まずは、今後数十年先を見通した整備方針が必要であるため、平成28年度は長寿命化計画を策定する上での基本的事項・方向性(道しるべ)を定めた基本方針を策定しました。

今後は、この基本方針に沿って、平成30年度までを目途に、改修等の内容や時期、費用等を整理した「長寿命化計画」を策定し、スピード感をもって実施につなげていきます。

基本方針のポイント

(長寿命化計画策定における視点)

愛知県公共施設等総合管理計画の考え方に沿い、「安心安全の確保」を最優先とし、施設総量とそれに投じるコストのバランスに考慮して事業費を削減しつつ平準化を図っていきます。

建物の目標使用年数と改修周期

- ・ 躯体の状態を確認した上で、従来の使用年数60年を80年に延ばします。
- ・ 今後も、「大規模改造工事」の実施を基本とし、築60年経過を目途に築80年まで使用することを目的とした「長寿命化改修工事」を実施します。
- ・ 今後は鉄筋コンクリート造(RC造)の建物についても、原則として鉄骨造(S造)により建替えます。

学校の配置計画

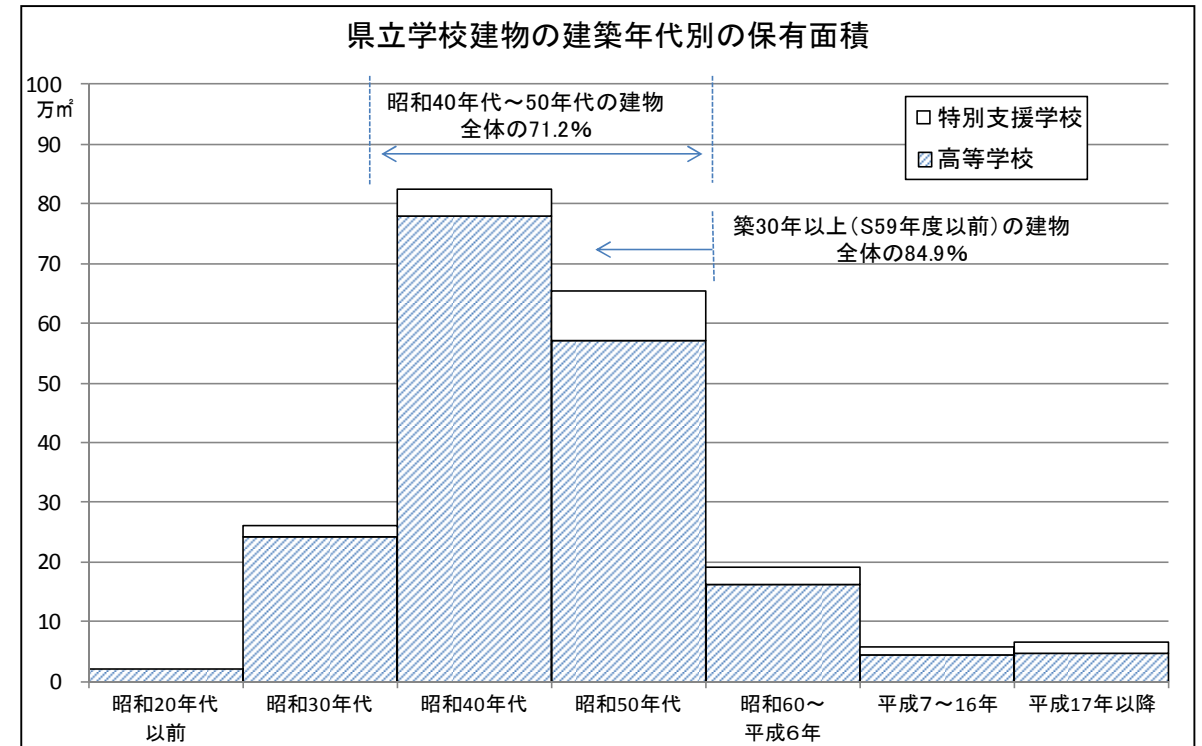
- ・ 「県立高等学校教育推進実施計画」及び「愛知県特別支援教育推進計画(愛知・つながりプラン)」を上位計画とし、その方針に沿って施設総量の適正化を進めます。

事業費の削減と平準化に向けて

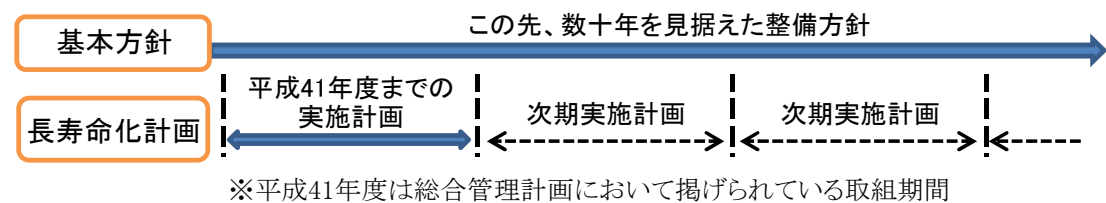
- 建物の長寿命化により使用年数を延ばすことで、今後20年間程度は事業費の平準化を図りつつ、従来に比べ事業費を縮減することができます。
- 平成52年度以降は、生徒急増期に建設した建物が築80年を経過して建替えの時期を迎えますが、S造により建替えることや、将来の生徒数の減少を踏まえた適正規模で改修又は建替えることにより、事業費を縮減していきます。

○ 県立学校施設の現状

- ・ 施設総量 3,222棟、約208万㎡
- ・ 老朽化が進行 築30年以上の建物が全体の約85%
- ・ 建築時期に偏り 昭和40年代から50年代(生徒急増期に建設)の建物が全体の約7割



○ 基本方針の位置付けと長寿命化計画



○ 「従来の考え方」と「長寿命化の考え方」の比較

従来の考え方 (築60年経過を目途に建替え)	築30年	築60年
	大規模改造工事	(建替え)

長寿命化の考え方 (築80年経過を目途に建替え)	築30年	築60年	築80年
	大規模改造工事	長寿命化改修工事	(建替え)

○ S造のメリット

工期が短縮できて、学校運営上の負担を軽減できます。また、工期の短縮に伴い、建替えに要するコストを削減できます。